

令和4年度 城山地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和4年12月22日（木）午後6時00分から午後7時30分まで
- 2 場 所 城山公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、森副市長、石原緑区長、
河崎健康福祉局長、山口都市建設局長、畑緑区副区長
川村市民局長
- 4 出席委員等 23人
- 5 傍聴者 8人
- 6 懇談会の要旨

テーマ	安心して移動できる環境づくりについて
概要	<p>住民が日常生活を送るためには、日常的な買い物、通勤・通学、医療機関への通院等、人の移動は生活上欠かせないことであり、安心して移動できる環境づくりは、住民の豊かな生活にも繋がる。</p> <p>令和2年度の城山地区まちづくりを考える懇談会では、「高齢者等の移動手段の確保に向けた取組について」というテーマで懇談会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響から開催中止となり、担当課からの書面による回答をいただいているところである。その回答の中にあつた民間タクシーの活用についての検討状況やお出かけの“わ”委員会（地域ケア会議地域づくり部会）が中心となり実施している相模原市高齢者移動支援推進モデル事業を踏まえた移動支援に係る経費の補助等について、2年が経過する中での市の取組・支援状況を確認するとともに、今後、高齢者や障害者、妊婦等を中心とした移動弱者が安心して移動できる環境の整備に係る市の福祉行政と交通行政の横断的な取組の方針や、地域住民によるボランティア輸送の取組に対する市の支援等について懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>城山地区では、お出かけの“わ”委員会が中心となり、令和元年11月から相模原市高齢者移動支援推進モデル事業のモデル地区となり、地区内の社会福祉法人の協力のもと、現在は町屋、原宿の2ヶ所の高齢者サロンへの送迎を実施し、高齢者の外出支援を行うとともに、今後の買物支援に対する取組の検討も行われている状況である。</p> <p>安心して移動できる環境づくりは、住み慣れた地域で豊かな生活を送る上で必要不可欠で、今後の超高齢化社会の進展を見据えると、大変重要な課題であると考えている。城山地区の高齢化率は、31.6%となり、市の平均の26.2%より5%高く、城山地区の中でも4地域では既に40%を超えている。このような状況の中で、この地区での暮らしのあり方を模索して、慣れ親しんだ地域で安心して暮らすためには、行政と地域住民とが強い連携や、共に働く取り組みがますます必要になると考えている。超高齢化社会がさらに進むにあたり、相模原市として、そして城山地区として、免許を返納しても安心した生活ができるまちづくりをこれから考えていく必要があると強く考えている。</p> <p>お出かけの“わ”では、サロン等々の福祉関連施設への高齢者の送迎を行っている。令和元年からスタートしたが、2年間はコロナ禍で中止となり今年度また</p>

	<p>改めて再開し、現在は2ヶ所の認知症カフェ等への送迎をしている。葉山島地区にて買い物ツアーも行っているが、今後さらに利用者一人一人が、例えば病院へ行きたい、市役所へ行きたい、お買い物したい等々の個別のデマンド型の輸送ボランティアをやりとうということをお出かけの“わ”の作業部会で考えている。</p> <p>また、もう一つは、若葉台地区にて環境省と市交通政策課とともに今年10月にアンケートをとった結果、51%ぐらいの回答があった。12月にアンケートの結果を聞き、1月に市長の見学予定もあり、若葉台地区にて電動カートによる移動困難者の送迎を地域主体でやれるように現在組織作りを行っている。若葉台をはじめとして、城山全体で色々な方で運営会を作り、それで若葉台からそのデマンド型も含めた、お出かけの“わ”による個別の自家用車による送迎等々もできるような、住民主体の組織を作って、少しでも皆様にボランティアで支援できるようにしたいと思っている。</p> <p>安心して移動できる環境づくりの一環として、もちろん市の様々な補助金や支援も必要であるが、住民が我々の力でできることをやりとうと一生懸命今取り組んでいる。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>本市においても、高齢化の進行や、免許返納などにより、買い物、病院等への外出が困難な方が多くなっている。こうした状況を考えて、地域の皆様の支え合いによる移動支援の取組を促していくため、令和元年度から高齢者移動支援推進モデル事業を城山地区と麻溝地区で実施している。麻溝地区では、コロナ禍でなかなか思うように進まない状況があったが、地域ケア会議や地域づくり部会などでアンケートを実施し城山地区と同様に、社会福祉法人に車両等々のご協力をいただき、原当麻駅を中心とした買い物移動支援の取組を現在検討している。また、運行車両の愛称を「麻丸号」に定めて、ロゴマークを作成するなど、調整・準備を進めている。</p> <p>こうしたモデル事業について、市としては専門アドバイザーの地域への派遣や、運転手等の担い手確保のため、担い手の養成講座を開催している。令和4年度は8月27日に津久井保健センター、9月10日に緑区合同庁舎、12月10日にはけやき会館で開催しており、城山地区からも11名に研修を受けていただき大変感謝している。</p> <p>モデル事業については、来年度以降、本格実施していく予定であり、地域のボランティア団体の皆様に対しては、引き続き、担い手の確保に向けた講座の開催や、アドバイザーの派遣を行っていきたい。また、運行・運営に対する支援として、車両費用、ガソリン代、保険料などの運行経費に対する助成制度の創設も検討している。</p> <p>他には津久井地区で運行している「けんこう号」をより使いやすくした移動支援の充実への活用、介護予防へ通いづらい地区においては移動支援の追加、対象は高齢や障害の方限定とはなるが福祉有償運送の利用しやすい環境作りについても、検討を進めている。（河崎健康福祉局長）</p> <p>地域の交通手段の確保の取組として、民間のタクシーを活用した対策と、地域住民によるボランティア輸送の2点を説明させていただく。</p> <p>まず1点目の民間タクシーの活用については、交通不便という観点から交通環</p>

	<p>境の課題を解決するためにAIやIoTといった技術を活用することにより、全国的に目まぐるしい進展をしている。</p> <p>本年3月に総合都市交通計画を策定しており、多様な移動ニーズに対応するためにアプリ等を用いたタクシーへの乗車や、ボランティア団体の福祉的な事業を活用した移動手段などを計画の中に盛り込んでいる。</p> <p>令和3年11月1日からはアプリを通じてタクシーに相乗りできるように制度が変わっており、利用者の利便性や効率性を高めるための取組が進められている。</p> <p>タクシーに乗るのに「タクシーGO」などのアプリが主流になっており、市内のタクシー業者の約9割がこのアプリを導入している。こうしたアプリが相乗りに対応できるようになれば、複数の方がタクシー会社に連絡したときに、途中で複数の客を拾いながら目的地に向かい、順番に降ろしていくような形ができる。このため、アプリ開発等の動向も現在注視している。</p> <p>また、タクシーの活用としてはサブスクリプションの形で、都内で毎月一定額を払うと乗り放題というサービスなどを実施している例がある。</p> <p>今後は相乗りやアプリの普及により、タクシーの利用率が高くなる見込みもあり、料金も安くなれば合理的であると考えている。ただし、知らない人との相乗りは難しい部分もあり、他市ではマッチング率が上がっていない状況もある。</p> <p>2点目に地域住民の方のボランティア輸送について、環境省事業である令和4年度グリーンスローモビリティの導入に係る調査普及促進事業に若葉台が選定されたため、実証運行に向けて検討・アンケート等を進めている。グリーンスローモビリティのメリットは、スピードが20キロ未満のゴルフ場にあるようなカートで様々な定員のサイズがあるが、地域の中を小回りできるので、買い物に行ったり、バス停まで向かうというような移動ができる。スピードの出ない車両であるため、運行は一定の地区内を想定しており、幹線道路を走るのは難しい。今後、1月18日に予定しているテスト走行の検証や、地域の方に使ってみた感想を聞くなどして取り組んでいく予定である。地域の方にアンケートを10月10日から23日まで実施し、半数以上の方からお答えをいただき、12月16日には自治会、若葉台住宅を考える会、市担当者、環境省事業受注者でお話させていただいた。橋本まで行きたいなどの話もあったと聞いているが、バス路線と置き換えることはできないので、バス停まで便利に行けたり、近場の買い物などで使えれば良いと考えている。今年は環境省の事業で実施して、来年度は市の事業として2ヶ月の実証運行を2回実施する方向で庁内調整を行っている。予算が整えば実証運行を行った上で、使い勝手や課題など色々と整理しながら、導入に向けて検討していきたい。</p> <p>こうした取組によって、便利に移動ができて外出しやすくなれば良いと考えており、地域の皆様と対話をしながら進めていきたいので、引き続きよろしく願いしたい。(山口都市建設局長)</p>
--	---

懇談内容	
地区の発言	市長から話のあった、誰1人取り残さないというのはSDGsのテーマでもあり、それを基本で考えていただきたい。また、交通が不便な地区は既に取り残されて

	<p>いる感じがある。現在、自身もお出かけの“わ”の委員であるが、様々な要望があり、誰がどのように運営するかなどの課題がある。市からは運行や運営の支援をする、ガソリンや車両の支援をすると伺っているが、車両の維持管理も大変なので、長く続けていけるような方策と協力をお願いしたい。運営について先進事例があれば教えていただきたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>モデル事業は城山地区と麻溝地区で行っているが、モデル事業の実施以前から、藤野地区や光が丘地区でも同種の事業を実施している。今後、実施地区を拡大するにあたり、城山地区と麻溝地区での取組については内容や課題をまとめて、市から各地区に提供していきたい。市として実施する以上は、持続可能な形で地域による活動を続けていただきたいと思っているので、引き続き実施地区の皆様のご意見も伺いながら、市としてできる支援を検討していきたい。（河崎健康福祉局長）</p> <p>例えばバスやタクシーも公共交通であるが、公共交通事業者等の皆様のご理解がなければ、新たなモビリティの導入は難しい。職員にも新たなモビリティの導入について継続して取り組むように指示している。</p> <p>城山地区をはじめ市内の多くの地域で高齢化率も高くなり、免許返納等も増えている。交通が不便な地区の公共交通として、コミュニティバスを運行して欲しいなどのお話をいただくこともある。今は大野北地区と大沢地区の2ヶ所で運行しており、年間約5,000万円の経費がかかっている。コミュニティバスの導入は地域からの働きかけで前に進んでいく。また、もう少し費用のかからない形としてタクシーをこれまで以上に公共交通として利用できないかなど、様々な試みをしている。例えば、現行の「けんこう号」は古くなったので廃車するものの、若手の職員からの提案もあり、ワゴンタイプに変更して3台に増やそうと考えている。</p> <p>皆様からいただいた意見に対して、市もチャレンジをして、駄目だったら変えていこうと思っている。誰1人取り残さないという視点で、皆様のご協力とご理解も必要だと思うが、市も新たなモビリティを作っていきたいと思っている。それぞれの地域の実情が違うので、なるべく地域の皆様に寄り添った形で、地域に合った交通システムの取組を進めていきたいのでご提案いただきたい。（本村市長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>若葉台ではグリーンスローモビリティの実証運行を実施するが、城山地区では他にも葉山島地区や小倉地区など人口も少なく40%ほどが高齢化している地区もある。大きなエリア内でタクシーを自由に使えるだけではなく、小規模な集落で民間のタクシーを使うときには、補助金がついたタクシー券を配布してもらうなどできないか。広いエリア内に点在して住宅があるが、高齢者も多く、1人で出かけられないなどの課題に対して、民間と公共のツールで何かアイデアはないか。</p> <p>住民側としては若葉台から始まって、城山全体で有償運送などできるようにしたい。我々住民の担い手が少ないため、都度の呼び出しに対応する大変さもあるものの、何かできるようにしたいとは思っており、頑張っていきたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>葉山島・小倉のバス路線も令和3年に見直しを行い、原宿からの路線について</p>

	<p>は廃止しているが、4月からは田名バスターミナルまでの新しいルートを設定しており、本数は変わっていない。</p> <p>高齢化が進むとタクシーが使われることが多くなるが、バス路線も年間1,400万円ほどの赤字のため、補填がないと維持ができなくなる。地元の方もバスを利用していただくと、赤字も少なくなり持続可能になる。市内のタクシー利用については、ラストワンマイルといった短距離の移動もタクシーでほしいという話も聞くが、タクシー代の補助を一律に行うのは現時点では厳しい状況なので、現状の公共交通も利用していただきたい。（山口都市建設局長）</p> <p>藤野地区などの中山間地域でもドアツードアで移動ができないのかという話を聞いている。健康のためには歩いた方が良いが、私も市長になる前に長竹などに行った際に、住民から買い物が困難であるとの声を聞いていた。1日に数回しかバスが来ないという話も聞いて、この4年間で特に交通対策に取り組んでいるが、本当に大きな課題だと思っている。現段階ではタクシー券を全員に配るなどはできないが、私たちだけではひらめくことのできない妙案もあると思うので是非教えていただきたい。（本村市長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>小倉に住んでいるが、バスに乗れるのは、比較的元気な若い高校生やサラリーマンが主であり、そういった方が朝と晩に利用している。バスに乗ってくださと言われても年寄りには乗れない。小倉も坂があり、バス停まで下りるのが大変である。免許返納する流れはあっても、車を運転できるうちは乗っており、電信柱に車をこすることが増えたら、車の運転はやめるとというのが実状である。</p> <p>バス路線がないと通学、通勤に困る人もいるが、高齢者はまた別の視点で、ドアツードアでも考えていただきたい。これから免許を返納するかどうかで悩む人も多い。ドアツードアを推進して、お金のかからない方策をみんなで知恵を出して決められたら良いと思う。</p>
<p>市の発言</p>	<p>若葉台での取組を他の地区にも展開していくことも可能であると考えており、今回初めて実証運行となるが、運転手がいないと運営ができない、坂がありバス停までの移動も困難だという課題など、実証運行の結果を踏まえ、新たな展開を考えていく必要があると認識している。地域の皆様と色々お話をさせていただきたい。（山口都市建設局長）</p> <p>ドアツードアが市民の皆様寄りの方針だと思っている。タクシーを使うのも一つの案だと思っているが、今後は全国でやっていないこともやっていきたいと考えている。城山地区で木に例えると、幹の部分はリニア新幹線、JR等の鉄道、枝の交通はバスで、葉の部分はグリーンスローモビリティとなる。今回実証運行は初めて実施するが、ドアツードアも良いということも、本日のお話の中で勉強できた。（本村市長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>グリーンスローモビリティは時速20キロであり、幹線道路の通行は困難なので、買い物には使いづらいと思う。また、行き先がバス停まででは、結局バスに乗って買い物に行かなければならない。知り合いの高齢者は買い物と一緒にいくサポーターがついている。1人で荷物を持てる人はどこにでも買い物に行ける。行きは良いが帰りは荷物を持って歩けないなどで困る方がいる。半身麻痺だがカ</p>

	<p>ートを押せば買い物できる人も、歩いて遠くまで行けない、若葉台のバス停から坂の上まで上がれないなど、色々な状況がある。バスやタクシーに乗れる人はどこにでも行けると思う。しかし、半身麻痺だったり足腰が弱くなった方などもあり、そうなったときに、どのように自分らしい生活をできるかというのを考えている。城山助けあい支えあいセンターでは、住民同士の助け合い、支え合いに取り組んでおり、サポーターが通院の介助等を行っている。このように、サポートをお願いされたら動く人もいると思う。あいあいセンターでも、買い物に同行してもらいたいというニーズがある。車があっても、制度として買い物には一緒に行けないことから、タクシーを利用することしかできない。</p> <p>バスに乗れる人だけではなく、バスに乗れない、タクシーも1人で乗れない人のことも考えていただきたい。多くの人歳を取ればそのような状態になると思う。次世代の人たちが支えてくれるようなシステムを作っていないと見捨てられていく人が出るばかりだと思う。弱い人の立場を考えていただきたい。</p> <p>移送サービスの研修を受けたことがあるが、車椅子の方が乗る専用車で、車椅子の止め方や、どのようにすれば乗る方が安心して乗れるかという心遣いなどを学んだ。しかし、せっかく学んでもその専用車がなければ、活用できない。また、専用車は維持管理が大変だと思うので、そこも考えていただきたい。サポートする人は多いと思う。</p>
<p>市の発言</p>	<p>グリーンスローモビリティについて、国道や県道など交通量が多いところでは、時速20キロ未満で、車体もある程度の幅があるため、渋滞の発生も考えられることから、脇道を運行することになると思う。近くにある薬局や病院へ問題なく行けるルートがあるかなど、実証運行結果を検証してからの本格運行になると思う。今年度もテスト走行を行い、来年度は2ヶ月間の実証運行を2回予定している。令和6年度は通年でやりたいと考えており、実証運行の中で改めて明らかになることもあるので、検証していきたいと考えている。（山口都市建設局長）</p> <p>高齢者がバスを利用しにくいという話もあり、バスに乗れたとしても買い物が辛いという声も聞いている。</p> <p>介護保険制度には介護予防・日常生活支援総合事業があるが、高齢者のサポートをする活動団体が行う取組で、令和5年度以降は車両を使用した買い物の同行支援も対象にしていきたいという検討も行っている。</p> <p>また、津久井地域で福祉の有償運送を行う団体も少ないという課題もあるので、団体が参入しやすくなるような助成制度も検討している。高齢者や障害者の移動をサポートできる体制を進めたいと考えており、内容が決定したら、様々な団体にも情報発信することで参画していただきたいと考えている。（河崎健康福祉局長）</p> <p>6、7年前から光が丘地区では「お太助カー」といって、民間の皆様がお買い物のお助けとして、ワゴン車で同行する事業がある。光が丘地区での取組を城山まちづくりセンターからお伝えするので、参考にさせていただきたい。（本村市長）</p>

<p>地区の発言</p>	<p>歩道橋のある交差点付近のバス停で、高齢者がバスを降りて車道の反対側の方に行きたい場合に、足腰が痛くてどうしても歩道橋を渡れないことがある。</p> <p>そのような場合に、横断歩道がない所を渡るケースが見受けられる。バス停が近くにあって歩道橋もある交差点に横断歩道は作れないのかと問い合わせたことがあるが、車道を渡るための歩道橋なので、横断歩道は作れないと言われたことがある。</p> <p>歩道橋を渡るのは大変なので、外出したくなくなるといったケースはあると思う。横断歩道がないところを渡ってしまうと事故となることも考えられる。</p> <p>高齢者が楽に買い物できるようなハード的なことも考えていただきたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>歩道橋は市内でも複数あり、安全を確保するために、子供達の通学路などには歩道橋をつけている。横断歩道があると歩道橋が使われないことを避けるために、警察等の指導により元々あった横断歩道を消すという条件がある。</p> <p>エレベーター付きの歩道橋は少なく、バリアフリー化はされていない状況なので、高齢者が多くなれば、階段を上がるのも非常に大変になるといったご意見を踏まえ、他の事例も参考にしながら考えていこうと思っている。また、バス停の近くに横断歩道の設置をしてほしいという話があったが、バス停のすぐそばに横断歩道もあると、バスの前後を横断して事故が起きるということもあり、交差点を避けたり、横断歩道から少し離れたバス停も多いため、改善を行っていることは承知している。横断歩道がバス停に近ければ、便利だと思うが、逆にバスが止まっている時の危険性等も考慮しなければいけない。貴重なご意見として参考とさせていただきます。（山口都市建設局長）</p> <p>緑区役所でも住民の方の話を聞いて、庁内で連携して生活の利便性の確保という視点でも、取組を行っている。例えば、移動手段がないと買い物に行くのが不便だという話があり、旧津久井の4地域を中心に、移動販売など別の手段で利便性の確保に取り組んでいる。城山地区では市と包括連携協定を結んでいるコンビニエンスストアが、若葉台住宅や葉山島、中沢で移動販売を行っている。週に1～2回、家の近くで店のない所でも買い物ができるなど、日常生活の利便性を確保できるように、皆様方から声を聞いてニーズを把握しながら取り組んでいる。移動支援だけでなく違った視点に立った取組からも、住みやすいまちづくりに一生懸命努めていきたいと思っている。（石原緑区長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>リニア工事等に関係して、協同病院や相原高校の移設などで、生活の拠点が変わってきている。利便性の面では、バス路線の検討などはどういった形で進んでいるのか、あるいは既に計画になっているのか伺いたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>協同病院が移転をして、新しくバス路線が設けられているが、もっと便利に使いたいという話もある。橋本駅からは朝、輸送量が倍となる連結バスが走っている。働いている方や病院に行く方などが使っているが、病院ができたことで病院内のバス停からも何路線か作られている。また、どこから来る方がどう不便なのかという意見があれば、バス会社に話をすることもできる。ただし、バス会社も運転手不足の影響などで便数が減っているが、終バスの運転繰り上げは運転手を確保していただき、しっかりと運行を維持していただきたいと話している。（山口都市建設局長）</p>

<p>地区の発言</p>	<p>タクシーとバス路線について、現状では葉山島からバスで仕事に行くと、帰りが遅い時間だとバスがない。本数がほとんどなく、乗客は橋本駅南口から二本松あたりで降りて、その後はほとんど乗客がいない。また、バスで買い物に出た場合、帰りのバスまで待つ時間が長い。</p> <p>タクシーを使うと、橋本から葉山島まで約10kmあり大体4,000円かかる。葉山島は高齢の年金生活者が多く、4,000円を払って買い物に行ったら年金が無くなってしまう。</p>
<p>市の発言</p>	<p>橋本と葉山島の距離が10kmあり、タクシーで4,000円かかる件について承知した。(本村市長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>橋本、鳥屋でリニアの工事を行っているが、葉山島の市道511号を通るダンプのスピードが速い。ダンプが小さい車の後ろにくっついて走っている。前の車は高齢者が運転してるのでスピードが出せないからだと思われる。付近の制限速度は40キロだが、ほとんどが60キロ以上の速度で走っており、約70キロ出ているダンプもある。</p> <p>高田橋から湘南小学校までは信号がない。葉山島は市道511号と圏央道に囲まれているが、圏央道も車で詰まっているのが見える。</p> <p>ダンプのスピードについてリニア担当課に話してもらいたい。ダンプにはJR東海のシールも付いている。</p> <p>白バイがたまに来て、スピード違反を取り締まっているが、ほとんどが乗用車を対象にしており、業者の車は捕まえていないように見える。</p>
<p>市の発言</p>	<p>リニア工事に関係したダンプの運行については、市ではリニア事業対策課がJR東海と調整をしており、地域への説明会にも参加しているのでリニア事業対策課からもJR東海にスピード厳守等の安全対策をさらに徹底するように話をする。(山口都市建設局長)</p> <p>ダンプにはリニア工事のシールが貼られているということであれば、今の話をJR東海にも話したい。</p> <p>津久井警察署に来週訪問するので、その際に話してみる。そういったご意見はありがたい。(本村市長)</p>
<p>市の発言</p>	<p>先ほど市長からも話があったように、移動支援についてはどこの地区でも要望があり、市長からも度々指示を受けていたが、コロナ禍等の対応でなかなか庁内体制が整わなかった。今年度に入り、都市建設局の交通政策課だけでなく全庁的に対策を検討していくよう庁内会議体を設けている。神奈中、小田急、JRなどへは相手方がいるので、すぐに何かできるということではないが、身近で動けるところでは、ボランティアの皆様、地区の皆様、社会福祉法人、中小の事業者など、市が協働できればすぐにでもやれることがあるのではないかと全庁で検討した。その中には、藤野地区でのスクールバスに、一緒に乗ってはどうかなどの案が出てきた。介護システムの中での移動支援への補助制度など、できることは国等の補助金等も活用しながら、全部に取り組んでいこうと頭出しをした。</p> <p>また、来年度に向けては、優先的に予算を付けるという努力を行った。実際にやってみて、色々と課題が出てくると思う。良かった点も悪かった点もあると思うので、こういった場に限らず、様々なご意見をいただければありがたい。予算</p>

	<p>が決まったら、来年度から開始する事業について、皆様にご説明させていただきたい。（隠田副市長）</p>
<p>市長の感想等</p>	<p>今日いただいた貴重なご意見をしっかり踏まえて、本市として、誰1人取り残さずに72万人の市民に寄り添う姿勢でいきたいと思う。今日はこういう形で皆さんに非常に貴重なご意見をいただいた。これからもまちづくり懇談会以外でも、ご用命いただければ現地を見学させていただいたり、皆様の声を聞いて対応しなければいけないと思う。</p> <p>私は市長になって4年目になるが、地域を回ると、城山町時代の方がスピード感があったなどの声を聞くこともある。そういった中で、相模原は一つになってよかったとっていただけるような行政サービスをしっかり心がけていかなければいけないと思う。</p> <p>城山町時代に比べると、まだまだ大変であると思うが、私たちも皆様からご指導いただき、勉強し学びながら、一緒にたすきを持って次の世代に繋げられるように、頑張っていきたいと思う。これからは私自身は顔が見える市長として、地域を歩いて参るし、楽しみながら、また勉強させていただきながら、ともに良い相模原を作っていきたいと思うので、引き続きのご指導をお願いして、本日のお礼のご挨拶に代えさせていただく。（本村市長）</p>